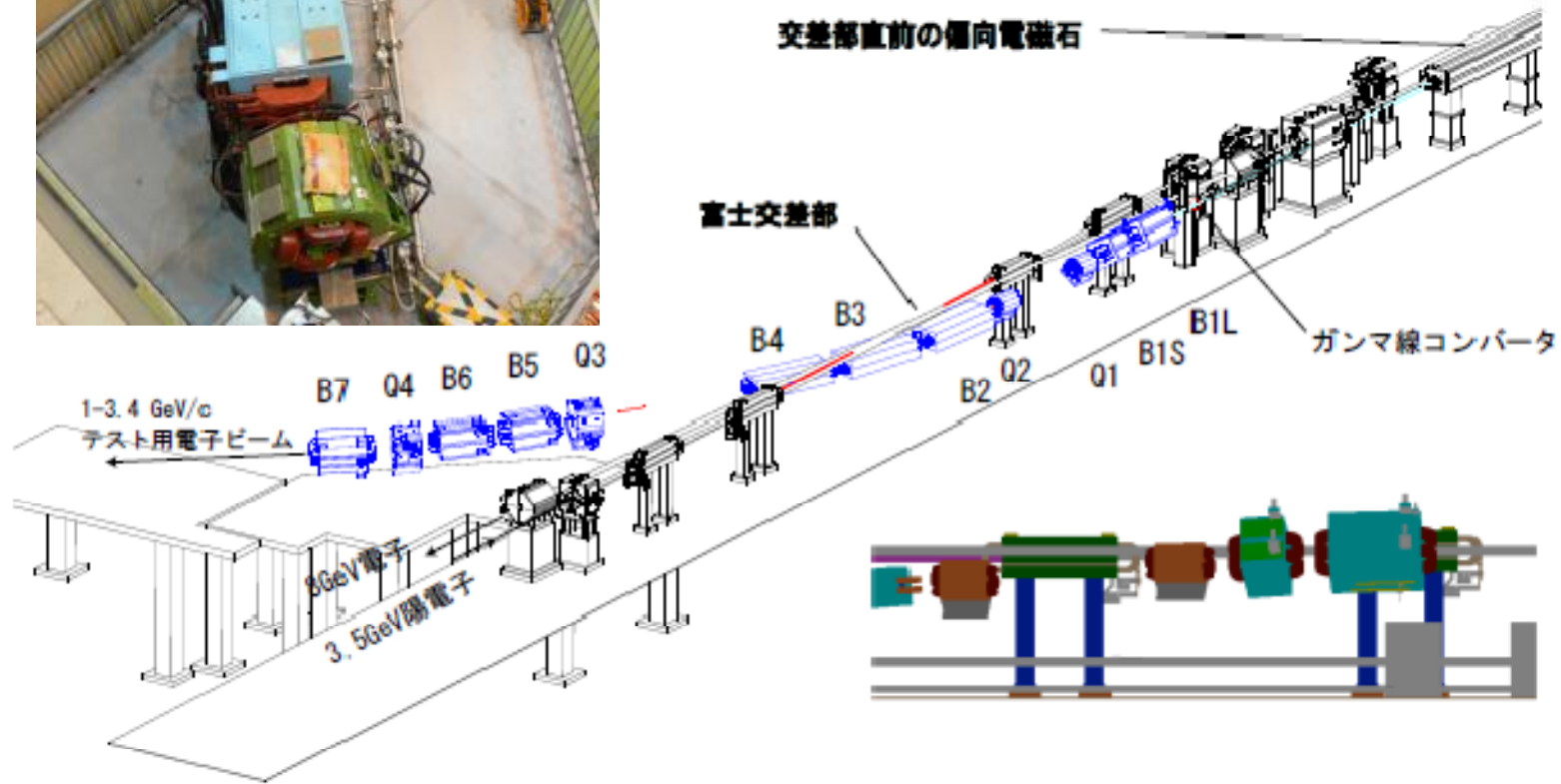
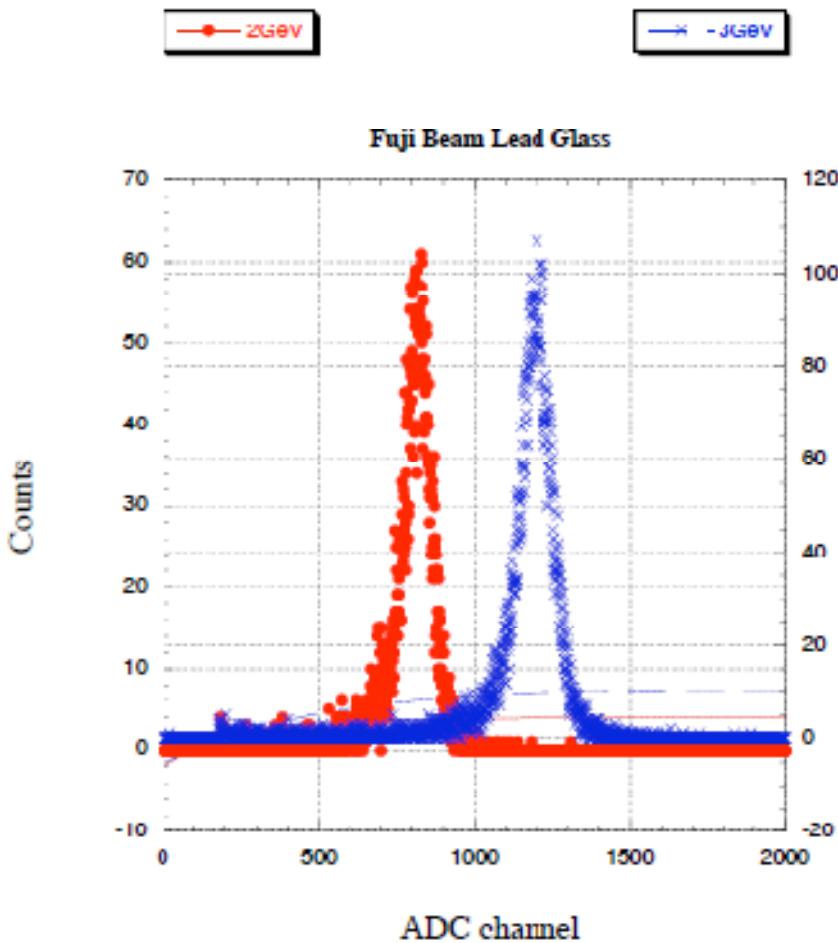


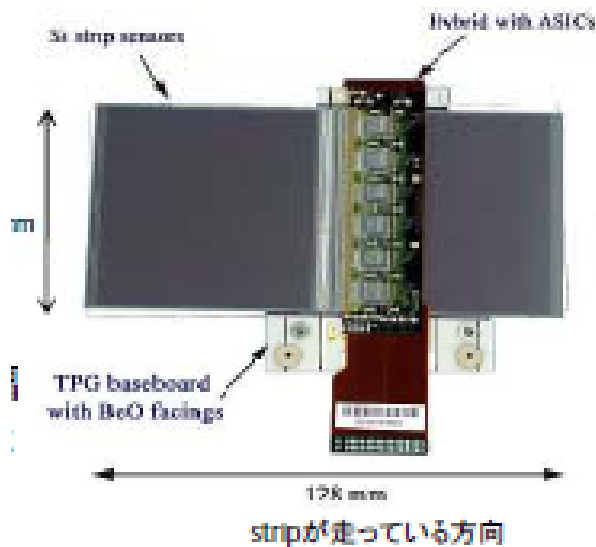
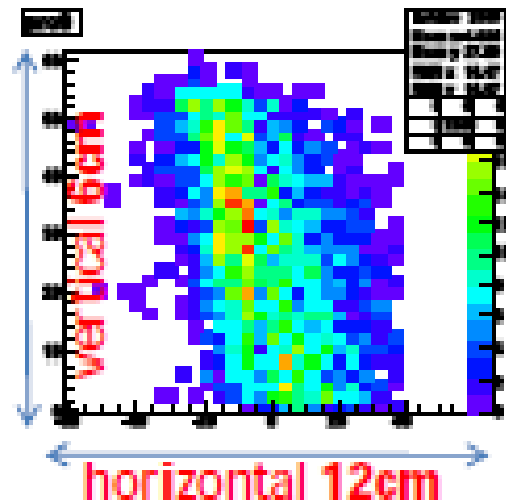
# 富士ビームライン FTBL



# ビームの現状



ATLAS SCT  
による贅沢な  
プロファイル  
測定(筑波大)

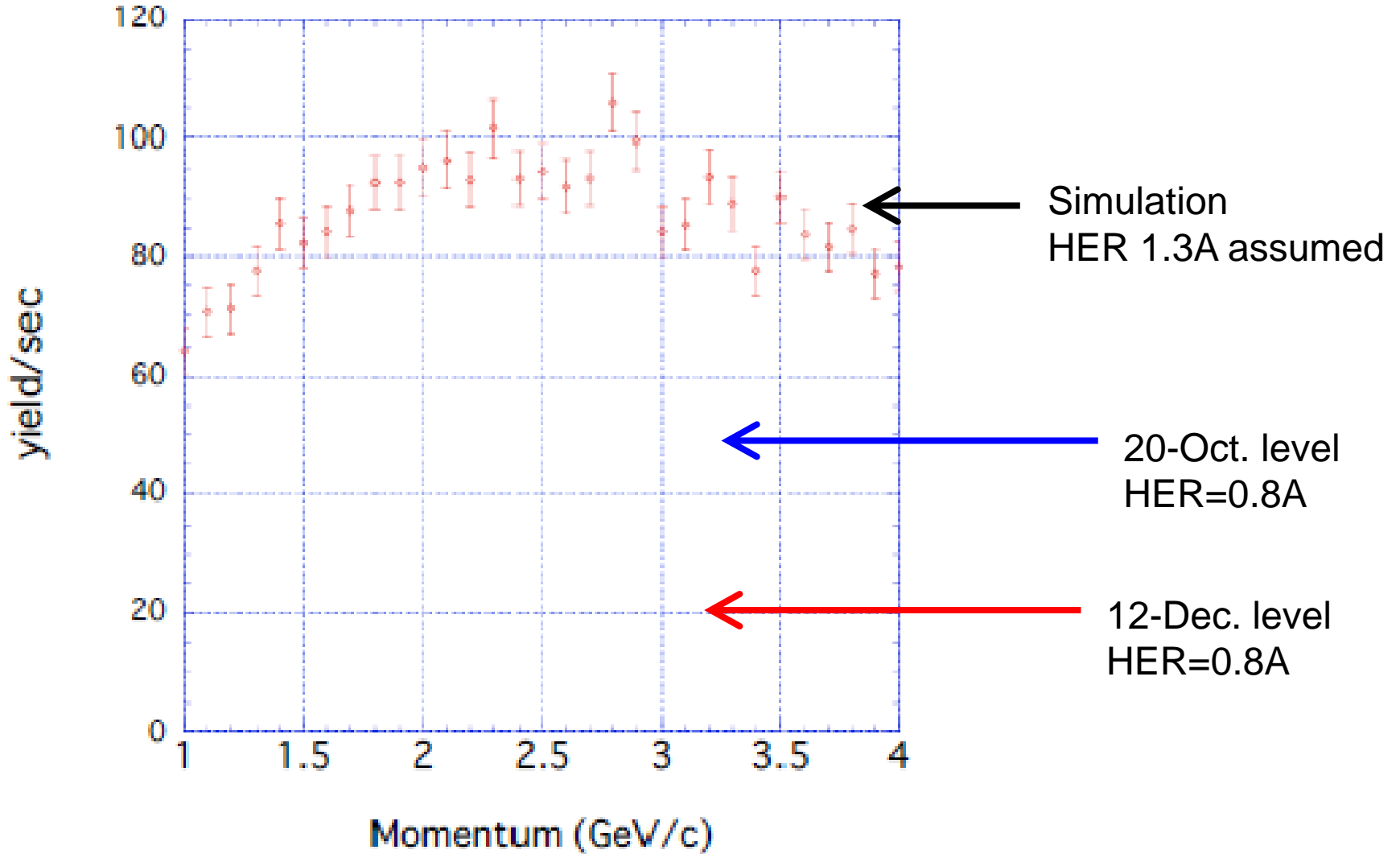


ビームプロファイル  
予想より大きい  
イールドが不足

鉛ガラスによるエネルギー測定

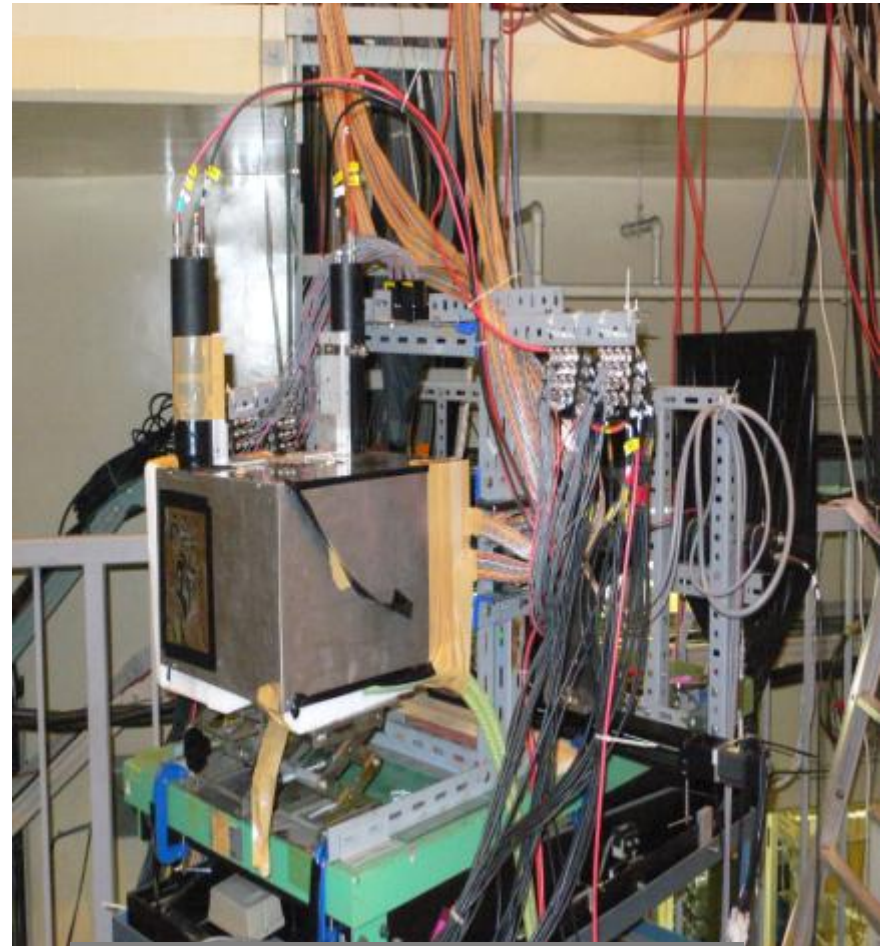
◦ yield/sec

### Electron yield/sec



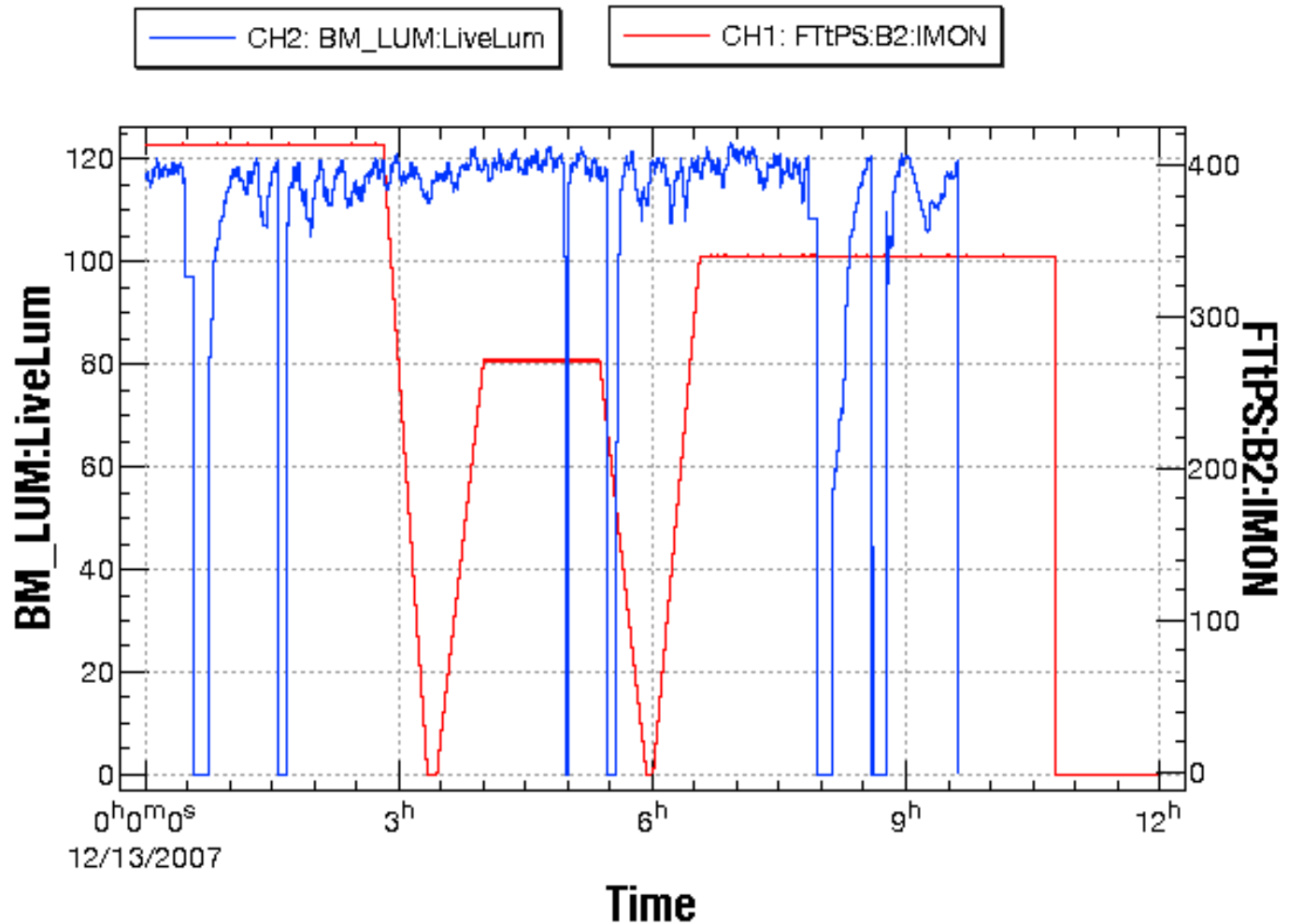
# コミッショニングと運用開始

- 10月コミッショニング(新潟大:川崎氏を中心としたユーザー会の活躍)
- 11月運用開始
- 登録ユーザー 51名  
(12月15日現在)
- 以下の実験が実施された
  - Belle-SVD(新潟大、東工大、Vienna)
  - T2K-InGrid(京大)
  - ILC-CAL(神戸大、信州大、筑波大)
  - PHENIX(筑波大)



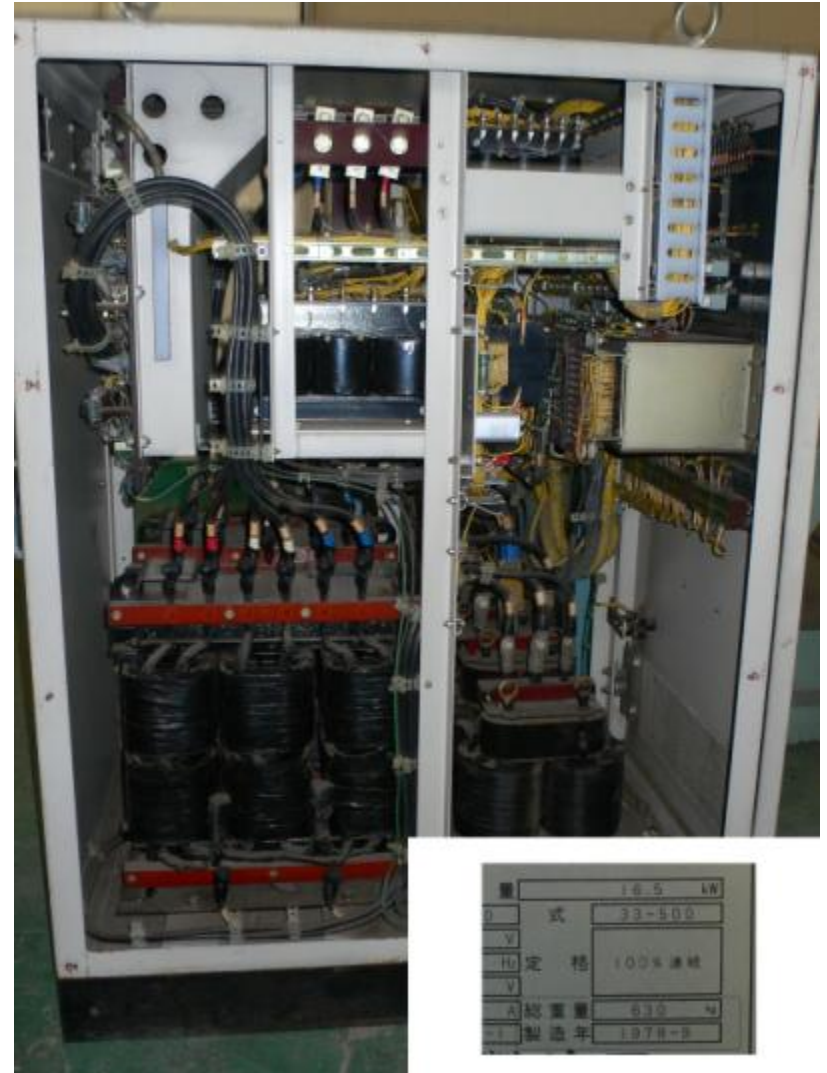
ILC Calorimeter test  
2007/11/20

# FTBL運動量変更とルミノシティ

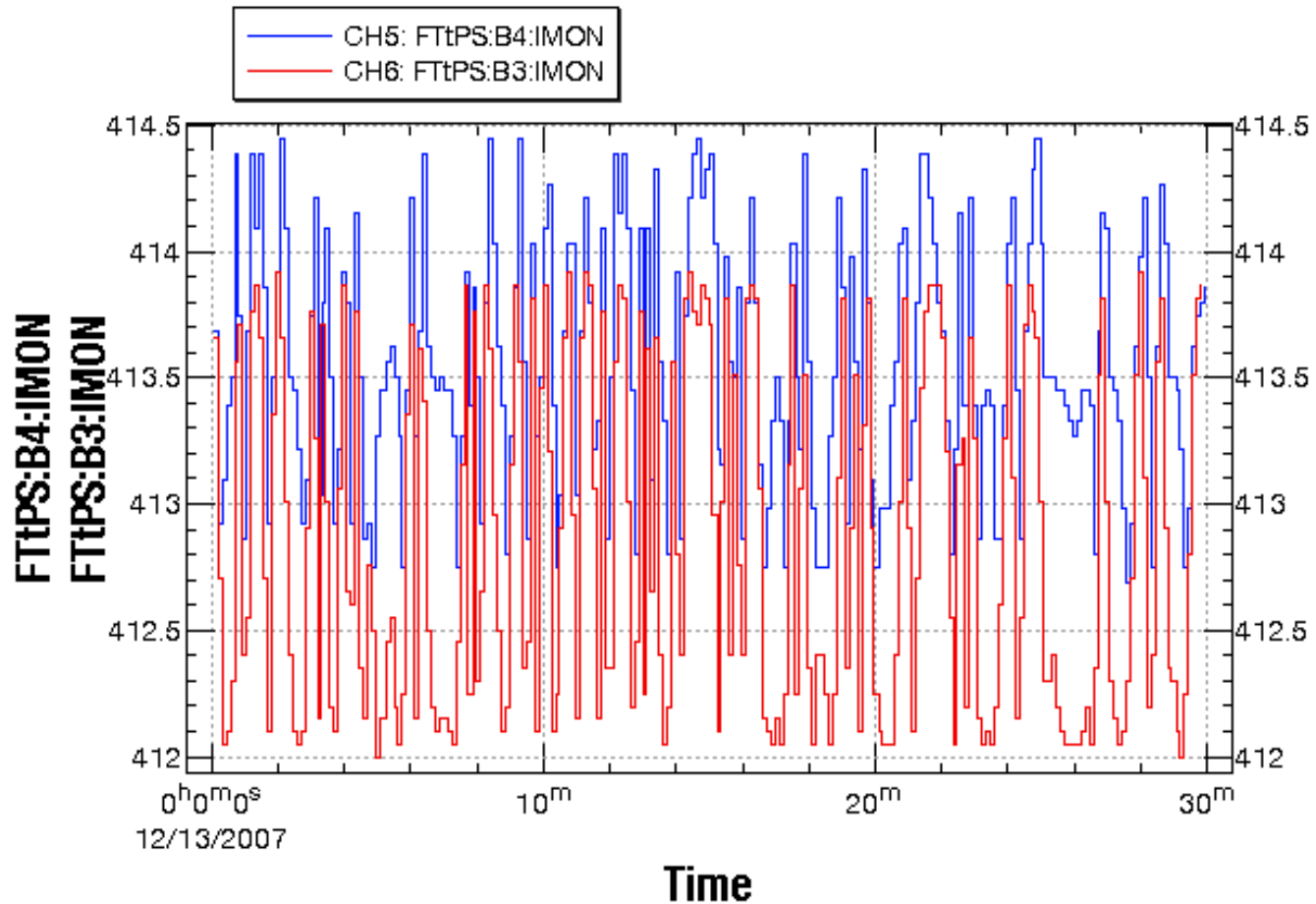


# 老朽電源の不安

- 電源オーバーヒート騒動。
- Q3 → B1Lへ転用。京大チーム、低イールドで苦しむ。
- 温度モニターの追加。
- ビームチャネルG鈴木氏の協力で修理（関係Gの理解にも感謝）
- 予備電源の確保が急務（cf・1978年製）

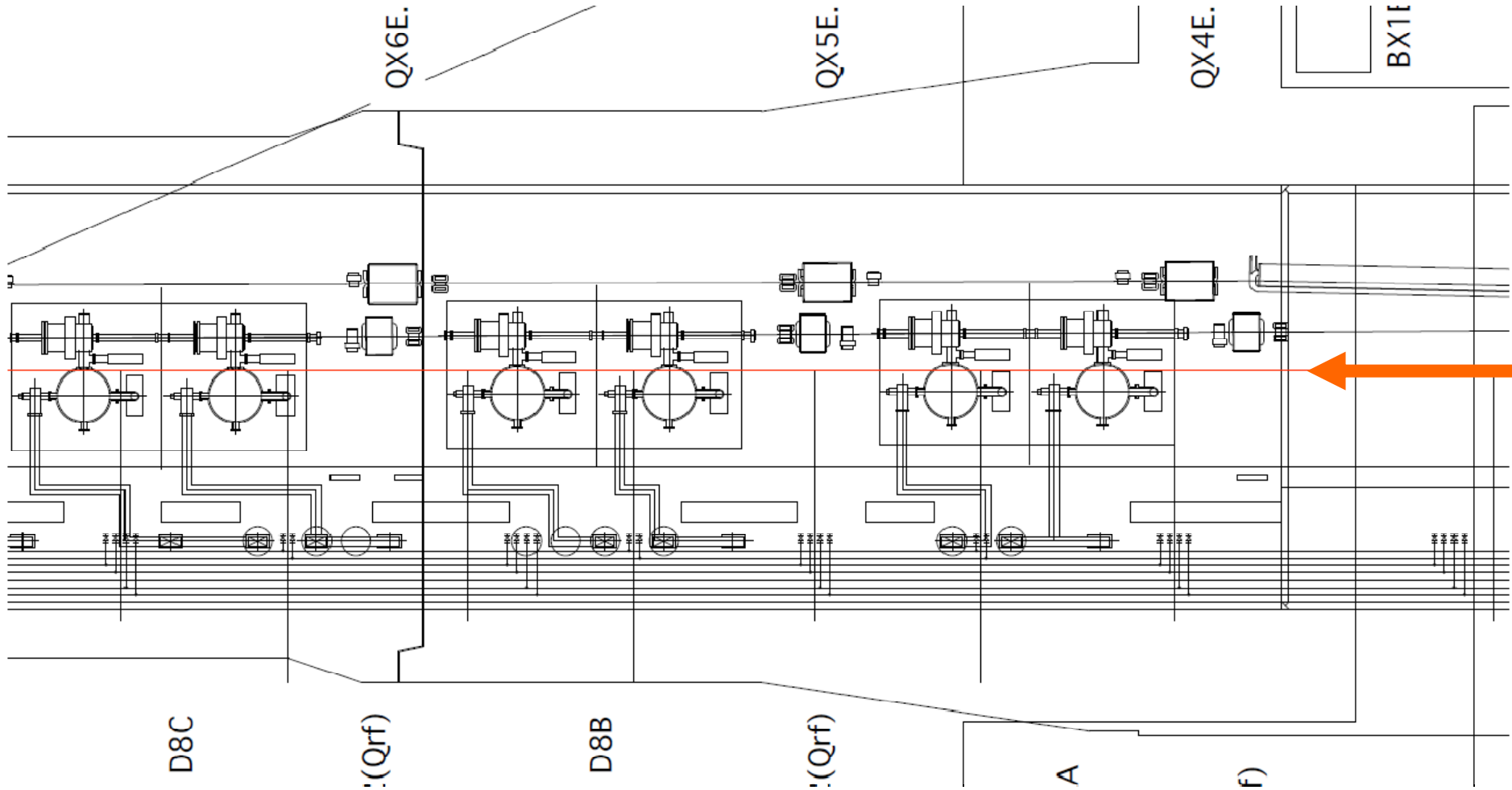


# 電流安定度 0.5%p-p?



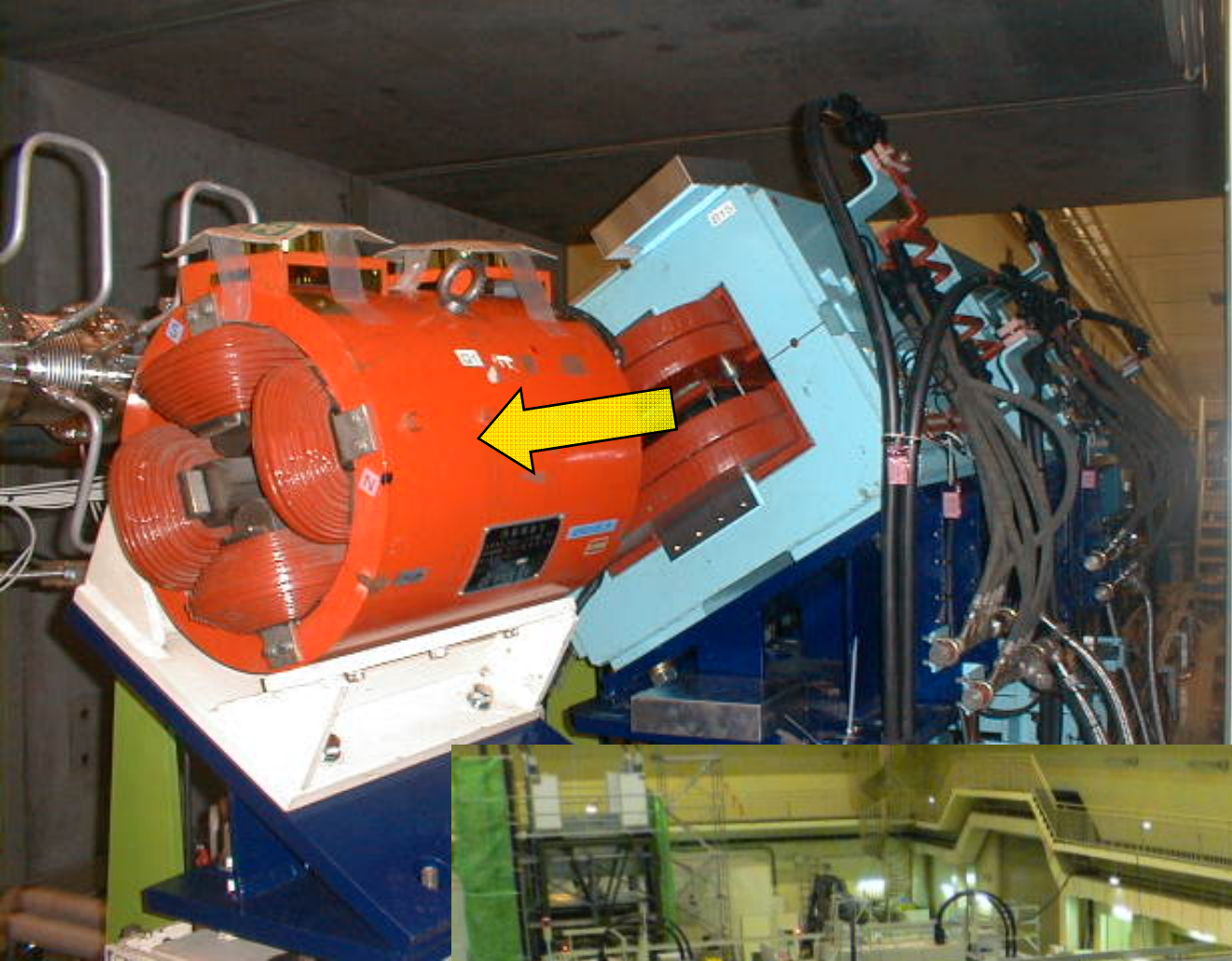


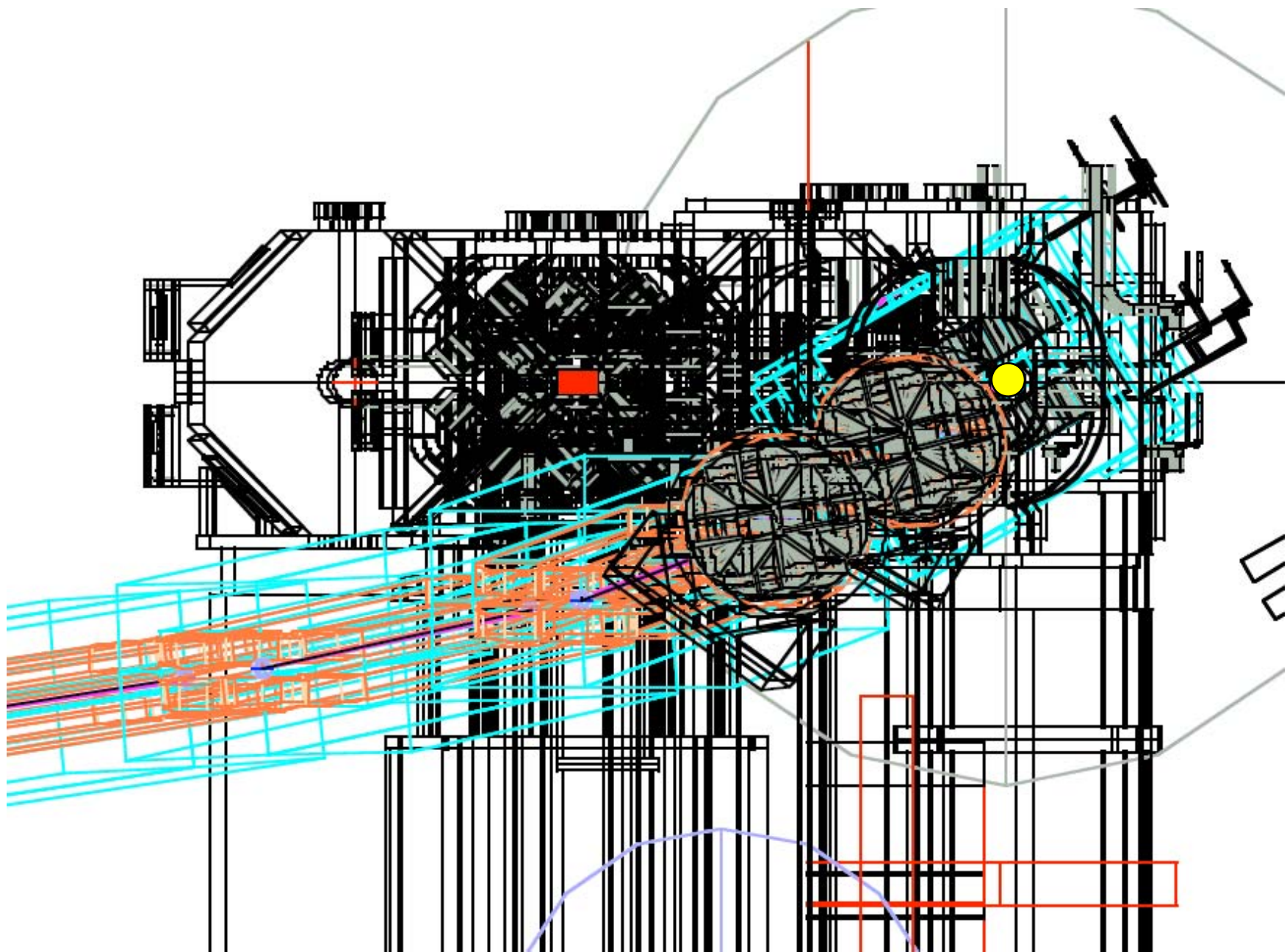
# 光子魚雷疑惑



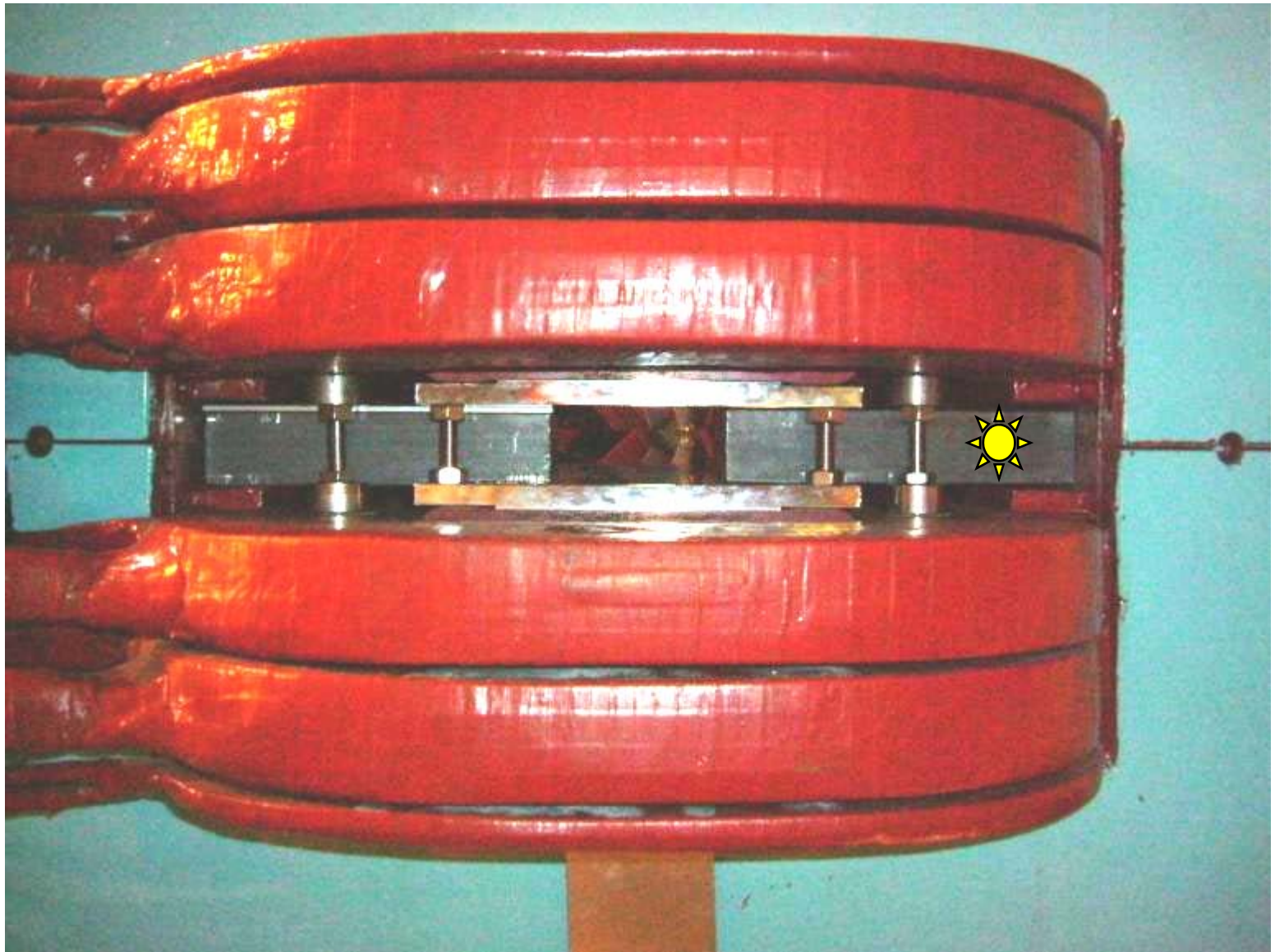
1GeV以上で最大数200kHz程度のガンマが通りうる(HER1. 3Aで計算)  
(エネルギーの総量はたいしたものではない)









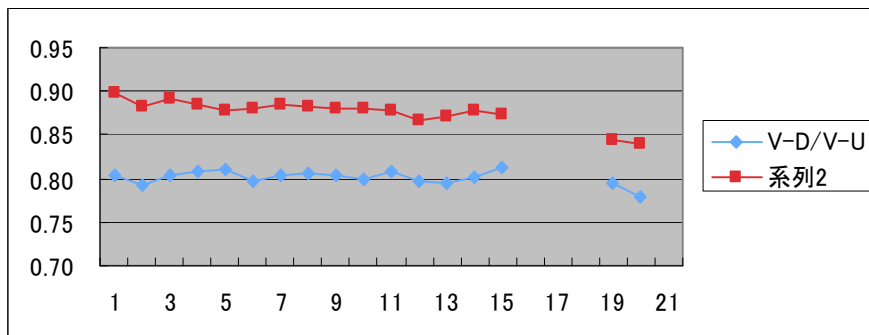
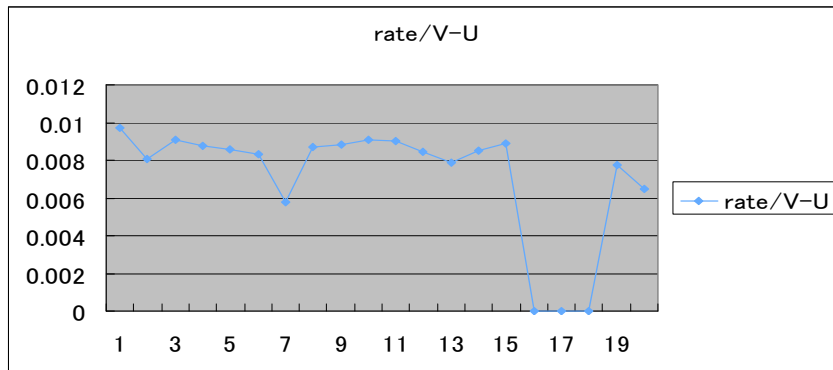
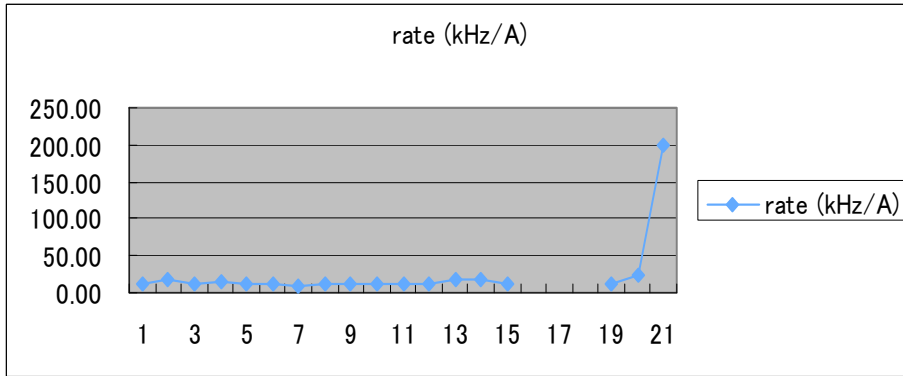


鉛コリメータによるガンマ線遮蔽を実施予定(B7L実施済みのもの)

# 今後のまとめ

- 電源の不安を減らしたい。
- フォトンストップをBL1Sの中に設置
- ビームレートは依然として極めて低く、少しでも増やしたい。
  - 恒常的なpressure bump just upstream of B
  - 上流マグネットのアライメントなど
- HEC, 核談より世話人(1)を指名+KEK(1)でビームタイム調整することとした。
  - 飯島(名古屋)、田村(東北)、幅(KEK)ビームタイムのリクエストはそれぞれの世話人へ。

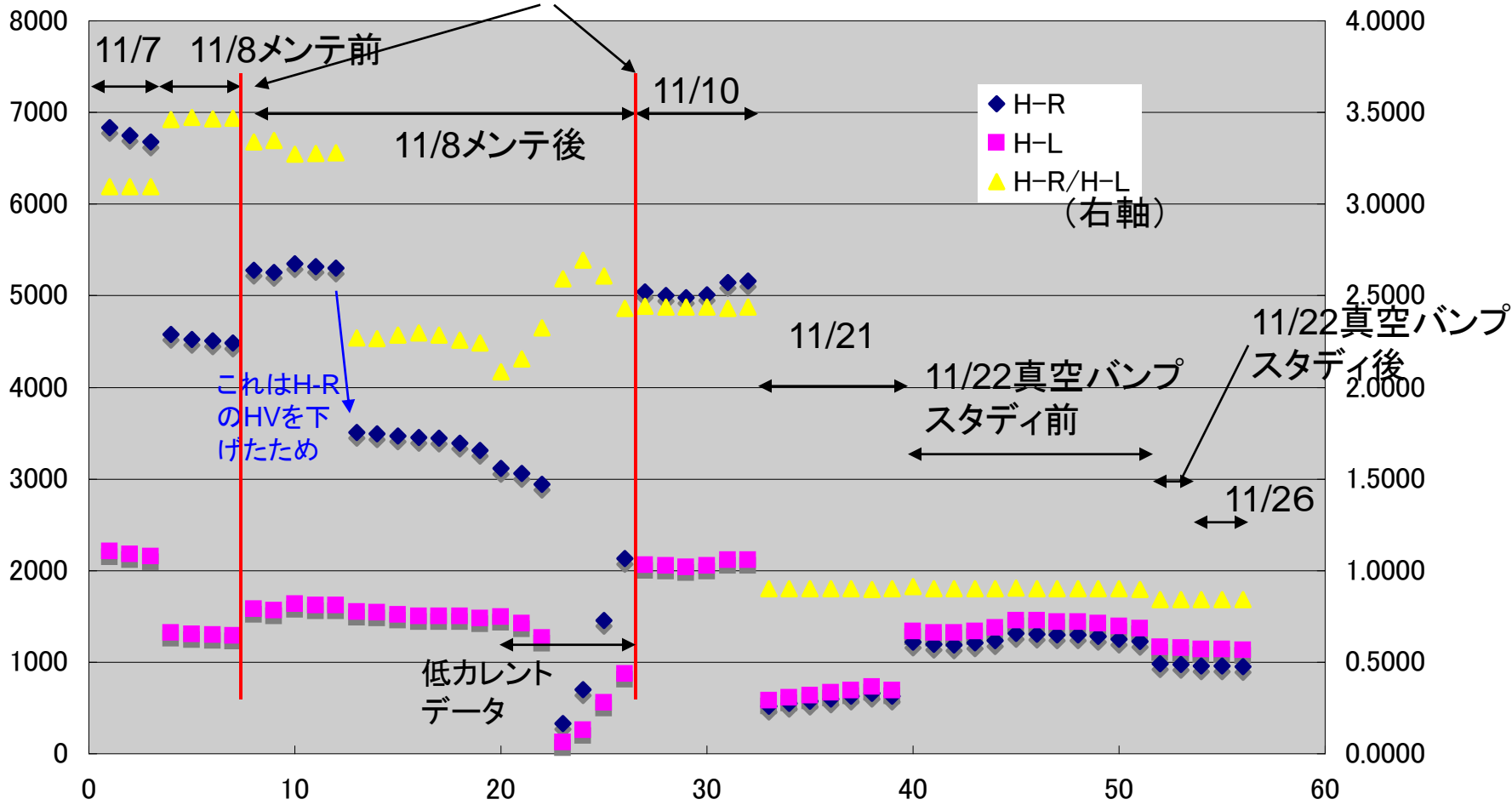
# Pressure Bump



- 1 normal
- 2 all off
- 3 normal
- 4 H02 off
- 5 normal
- 6 H03 off
- 7 normal
- 8 H04 off
- 9 H04A off
- 10 H05 off
- 11 H06 off
- 12 H04-06 off / H02-03 on
- 13 all off
- 14 H02, 03 off / H04-06 on
- 15 Normal
- 19 NEG1
- 20 NEG2 (H04A-06 ~  $5 \times 10^{-7}$  Pa)
- 21 NEG3 (H02-4A ~  $20 \times 10^{-7}$  Pa)

# H-RとH-Lのカウンタ

オプティクス補正



- 今期のご協力ありがとうございました。